



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学同窓会報

Vol.6

平成30年10月20日 発行

四日市看護医療大学同窓会事務局

ごあいさつ

四日市看護医療大学同窓会 平成23年度卒業 寺尾 亮平

この度、四日市看護医療大学同窓会会報のご挨拶及び、四日市看護医療大学同窓会総会・特別講演に関しましてご報告させていただきます。

時が経つのは早いもので、私が大学を卒業し7年が経過致しました。同窓生の多くは、日々専門職としてそれぞれの場で役割を持ち、活躍していることでしょう。また、仕事だけではなく家庭を持ち、子育てに励んでいる同窓生も多くいるのではないでしょうか。私は、教員として母校に戻り2年目を迎えています。主に大学では、実習指導を行っており学生と共に講義・演習での学びを統合させ、目の前の患者さんやご家族にとっての最適な看護とは何なのかを考えています。実習先では、多くの先輩や同級生、後輩が勤務しており病棟で気軽に声をかけていただけるなど恵まれた環境で仕事ができております。また、学生にとって病棟で活躍している先輩の存在はとても大きく、良い刺激を受けています。私も、学生と共に成長し教育だけではなく研究についても益々精進していきたいと考えております。

さて、平成30年6月22日（金）四日市都ホテルにて、第一回四日市看護医療大学同窓会総会が開催されました。役員・卒業生含め30名ほどが参加致しました。各役員から同窓会決算報告、事業計画、予算案、同窓会会則についての説明が行われました。すべての案について、満場一致で可決をされました。

総会後は、同窓会特別講演と題して杏林大学医学部付属病院看護部長の道元元裕先生をお招きしフィジカルアセスメントについてご講演いただきました。講演会は、卒業生・在学生・当大学教職員だけではなく卒業生が多く勤務している近隣の病院関係者にもご参加いただき約100名の方々にお集まりいただきました。講演会では、状態が刻一刻と変化する患者さんから、どのように異常のサインを受け取るのかという先生の投げかけから、バイタルサインの重要性を再認識し、特に呼吸状態のアセスメントや呼吸困難が起こるメカニズムなどエビデンスに基づいた講演内容から多くの学びを得ることができました。どうしても、モニター上の数値に目が行きがちですが、呼吸数の把握など患者さんの状態を理解する上でもっとも基本的な数値から得られる情報の重要性について気づかされました。現場から離れている私にとっても、演習や実習で学生にレクチャーする上でとても大切なポイントを網羅することができ実りある講演会となりました。

講演会後の質疑応答から大学での基礎教育や新人教育において大切なことは、学生や新人ナースが持つ知識を切り離した状態のまま放置するのではなくメカニズムを十分に理解させたうえでそれぞれの繋がりを持たせることが重要であるのご助言いただきました。また、講演会後の卒業生・在学生を対象としたアンケートでは、改めて基礎から学ぶことができ明日から臨床現場で活用することができそう、とても役に立ったなどの声を多く得ることができました。今後の講演会や勉強会のテーマとして認知症看護や災害看護など取り上げてほしいという声も把握することができました。この日は、講演会だけではなく同級生同士の交流の場として良い機会となりました。

役員一同、今後も講演会や勉強会を同窓生が集える場所・学び合える場所・刺激し合える場所とするべく、皆様のニーズに合った企画を展開して参りたいと考えております。同窓会の運営に関しまして、何かご意見等がありましたら私の方までご連絡ください。最後になりましたが、ご参加していただきました同窓生の皆様には心から感謝申し上げます。



努力を惜しまず、 自分らしく輝いて ください！

畑中 純子 教授



卒業生の皆様、お元気でしょうか。卒業してからの年月が経ち、職業キャリアを積んで職場で中堅として活躍していたり、あるいは転職した人もいることでしょう。就職1年目は仕事を覚えることに精一杯で、2年目は1人前と扱われることに不安を覚え、3年目に自信をもって、4~5年目くらいに自分の看護観と向き合い、ようやく自分の進みたい道を考える時期になるのかもしれませんが。今、その過程の直中にいる卒業生も多くいることでしょう。就職して初めて看護職という職業が自分に向いているのか、自分が目指したいものなのかという疑問に直面したり、看護職を天職として認識したりするのだと思います。皆さんがどのような道を選んだとしても、大学で学んだ看護は職業や生活に生かされる知識・技術であり、看護職としての経験は職業キャリアや人生に役立つものとなります。そのことを大切にして、なりたい自分を実現することを願っています。

かく言う私も助産師、保健師そして教員と決して真っすぐな道を歩んできたわけではありません。ですが、その時々で思っていたのは、大学卒業時に先生から言われた「これからの看護は貴方たちが創っていくのよ」という言葉でした。学んだ看護を基礎に自分の看護と向き合う努力をさせてくれた言葉です。卒業生の看護職の皆さんの努力がこれからの看護を支えていくことになると確信しています。そして、卒業生全員の皆さんの努力が四日市看護医療大学のイメージを創り大学評価を高めていくこととなります。

皆さんの努力を支えていくのが母校である四日市看護医療大学の教職員です。いつでも気軽に連絡してきてください。

「どんな種子を もっていますか？」

日比 千恵 准教授



夜空に月の姿が冴え渡るころとなり、秋たけなわを実感いたします。卒業生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

四日市看護医療大学はこの春、8期生を社会に送りだし、卒業生は800名を越えました。学位記授与式ではいつも、大切にしていたものを失ってしまうような寂しさを感じます。しかし、皆さんの様子をお聞きしたり、実習施設でお見かけしたりすると、大変嬉しく誇らしくも思います。看護の専門家として社会に飛び立った卒業生の皆さんには、大学の先輩として、人生の先輩として、本学の後輩たちを温かく励ましてくださいますようお願いいたします。

さて、卒業生の皆さんは、毎日が充実していますか。新しい課題や難しい課題に挑戦しているかもしれませんね。もしかしたら、壁にぶち当たり、自分の能力に限界を感じているかもしれませんね。「新人の時代がよかったな」って思うこともあるでしょう。経験年数を重ねていくほど、求められる量や質が変化していることも実感していることでしょう。

「はきだめに えんど豆咲き 泥池から 蓮の花が育つ 人皆に 美しき種子あり 明日何が咲くか (明日 安積得也)」という詩があります。人間は、一人ひとりが力を持ち、どんな状況にあっても、その力が発揮される時期があります。決して平坦な歩みではなく、楽しく充実した時もあるでしょうし、苦しい時があるでしょう。しかし、すべてを含めて人生そのものを意味のあるものとして肯定的に受け入れ、自分にはどんな花が咲くのか、どのように育っていくのか、楽しみながら進んでいって欲しいと思います。

もし、自分のもつ種子が分からない時は、どうぞ大学にお越しください。どんな芽を出したのか、どんな花が咲いたのか、どうぞ教えてください。私たち教員は、皆さんの一番のサポーターでありたいと思っていますし、そうあるべきだと考えています。これからも皆さんのご活躍を応援しております。

『大切な過去の時間と 思い出を、現在・未来 へとつなぎましょう』

別所 史子 准教授



卒業生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

職場では中堅に入られた方、後輩の指導にあたる方、新人の方など、それぞれの立ち位置で精いっぱい頑張っておられることと思います。また、人生の伴侶に出会い、とともに歩んでみえる方もおられることと思います。

実習先で卒業生に会うと年々頼もしくなっていくのを感じ、とても嬉しい気持ちになります。在学生は「四看の先輩だ！」と頼りにし、憧れのまなざしで先輩たちを見つめています。また、卒業生も後輩に丁寧に教えてくれたり、優しく声をかけてくれたりして、そんな様子を見ていると母校のつながりを感じます。全国の同じ世代を生きる人たちのなかから奇跡的な確率でここ四日市看護医療大学に集まり、看護職になるという目標に向かって4年間苦楽を共にし、ときには泣いたり怒ったり、笑ったりしながらたくさんのお話を学ばれたことでしょう。現在になって、大学生活を振り返ってみてどう感じますか？卒業して何年経ってもその当時の光景と一緒に過ごした同級生、先輩・後輩、教職員のことが鮮明に思い出され、なつかしくなったり、ほろ苦い思いであったり、様々な感情がこみあげてくるのではないのでしょうか。看護職は生涯学習が必要であり、職場では日々多くのことを求められ、ときにはそれがプレッシャーとなり辛く感じることもあるかもしれません。でも、そんな経験もきっと時間が経つと感じ方が変わり、一回りも二回りも皆さんを成長させてくれる貴重な経験となり、大きな力に変わっていきます。どんなときも本学の教職員は卒業生のみなさんを応援しています。また、皆さんの近況を聞けることを楽しみにしています。

大学の現況

看護棟が無線LAN (Wi-Fi) の利用が可能となり、学修環境を整備！

学科長 豊島 泰子

卒業生の皆さんお元気ですか？四日市看護医療大学は、平成28年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業によりアクティブ・ラーニング（学習者が能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法）を推進するための環境が整備されました。具体的には65インチの電子黒板の導入、看護棟ではどこにいてもモバイル端末を活用した学修が可能となり、B・C教室の間のスペースには机・椅子を配置しレポート・資料作成等の学修に対応できるようになりました。今後も卒業生も含め学べる環境整備に努力してまいります。

医療現場は高度化、複雑化し、ますます専門知識・技術が求められ、看護職が期待されているため苦勞も多いかと思えます。図書館を始めとして卒業生の皆様がいつでも学べる環境づくりにこれからも力を注ぎます。何か困ったことがあればいつでも相談に来てくださいね。今後とも皆様の活躍の様子を見守っています。



新任教員

【平成30年4月】

藤本和弘教授（基礎科目）、二村良子教授（母性）
多次淳一郎講師（在宅）、高田真澄講師（地域）
森 智子助手

【平成30年5月】

藤井夕香講師（成人）

【平成30年9月】

北井真紀子助教（在宅）

退任教員

【平成30年3月】

福原隆子教授（成人）、久米龍子教授（基礎）
石村由利子教授（母性）、小林美奈子准教授（老年）
加藤睦美講師（基礎）、古川智恵講師（成人）
中神克之講師（成人）、荻野妃那助教（在宅）
森 京子助教（成人）

第10回 よんよん祭

テーマ：「Harmony
～地域と大学の調和～」

10月27日(土)・28日(日)

今年度で12回目となる本学大学祭、四日市大学と合同で行う「第10回よんよん祭」を10月27日(土)・28日(日)に開催いたします。

大学祭では、アーティストLIVE、模擬店、よさこい、マジックショー、カラオケ大会など、楽しいイベントを多数準備しております。

看護学部企画「プチっとナース体験」では、地域の方々をはじめ、多くの人たちに健康や看護に興味・関心を持っていただけるようなイベントを実施します。さらに今回は、クラブ・サークル活動や、ボランティア・災害支援活動等の学外活動をお伝えできればと考えております。大学祭実行委員はじめ、学生一同、卒業生の皆様のご来場を心からお待ちしております。

▼△▼プチっとナース体験（看護棟）イベント内容▲▽▲

妊婦体験／赤ちゃん散歩／老人体験／バイ菌から身を守ろう／車椅子体験
くれよんサークル・救命部・災害支援サークルあおい・ボランティアサークル
nuku-nuku&キャンサーリボン



イベント参加ごとにスタンプをゲット、その数に応じて「くじ引き」のチャンス。ハズレくじはありません。



眞宮(小林)可奈(平成22年度卒業)

今、私は三重県立総合医療センターのNICUで働いています。新卒で入社したのは三重病院でしたが、3年目の時に現在の職場に転職しました。三重病院では重症心身障害児者病棟で働き、医療センターでは小児科、NICUと現在までに小児領域ばかりを見てきました。その中で、アレルギー疾患の子供に多く関わる機会をいただき、アレルギー疾患の子供の指導や家族との関わりなど自分で考えるようになりました。NICUへ移動となった今、このアレルギー疾患は新生児期のスキンケアが関わってくると感じ、学び、自分自身のスキルアップとしてアレルギーについてさらに深く学びたいと思うようになりました。自分自身の目指す専門性を明確にし、今後、小児領域のみならず成人領域でも活用していけるスキルとして深めていきたいと思っています。

加藤宏晃(平成23年度卒業)

三重県にある総合病院の循環器胸部外科の混合病棟で4年間働き、さらに循環器の知識を深めたいと思い循環器専門病院である名古屋ハートセンターへ転職し手術室配属となり3年目となりました。病床数64床の小規模病院ですが年間PCIを700件以上、心臓外科手術を350件以上行う病院です。TAVIやMitraClipと言った新しい治療にも積極的に取り組んでいます。専門病院ということもあり先生から求められることも多く、毎日多忙ですが、学ぶことがたくさんありとても充実した日々を送っています。心電図、心エコー、呼吸状態、血液ガスデータなどから患者の状態変化を予測し、先回りした循環管理が行えるようアセスメントしなければなりません。まだ先輩のようには出来ず、落ち込むこともあります。ハートセンターの名に恥じぬような看護師になりたいと思います。

寺尾彩美(平成23年度卒業)

私は大学卒業後、市立四日市病院のNICUで5年間勤務しました。現在は、名古屋市にある聖霊病院のNICUで勤務しています。NICUは低出生体重児や先天異常などで治療が必要な赤ちゃんが入院しています。「赤ちゃんの入院」と聞くと、可哀想なイメージが強いかもしれません。入院中の赤ちゃんを見て涙する両親も少なくありません。退院まで数か月を要する赤ちゃんもいます。一方で、小さな体で1日1日を精一杯生きている赤ちゃんを見て両親には少しずつ笑顔が増えていきます。働いていく中でNICUは治療の場であると共に、家族が育つ場所であると感じます。私がNICUに魅せられた理由の一つです。現在、私は育児休暇中で子育てに奮闘する毎日です。休暇中に得たものが、職場復帰した際に生かすことができたかなと感じています。

加藤唯記(平成24年度卒業)

私が藤田保健衛生大学病院のICU病棟で働き始めから6年目を迎えました。ICUという閉鎖的かつ制限のある環境の中で、言葉にならない心の声を汲み取りながら、患者さんとその家族の繋がりを守るため、看護を創造し、実践できる楽しさを感じながら働いています。年々経験を重ねるにつれ、任せてもらえる仕事も増えると共に、責任も大きくなってきました。男性看護師会を運営し、ワークライフバランスをもとに働きやすい職場環境の追求や実績研究への取り組み、教育指導者として教育する事の難しさに直面しつつ、その忙しさを噛みしめています。そんなふっとした時に看護実習で、一心不乱に目の前の患者さんや物事と向き合っていた頃を思い出すことがあります。たった一言の「ありがとう」を求めていたあの頃の気持ちを忘れずに、頑張っていきたいです。

近藤清美(平成24年度卒業)

私の仕事は、四日市羽津医療センター健康管理センター 保健指導室で健診や保健指導、学生指導などを行っています。皆さんの健診のイメージはどんなものでしょうか。最近是人間ドックや特定健診の他に脳ドックやPET健診、認知症の健診や動脈硬化のリスクなど、様々なオプション検査が増えてきました。学校で学んだ知識をもとに日々、新しい情報を得て学習しながら仕事をしています。日本の平均寿命は伸び、「人生100年時代」がすぐそこまで来ています。私は、寝たきりにならないように人生を全うする為には、毎年、健診を受けて再検査が必要な場合はかかりつけ医に相談する、また、保健指導や健康相談などを利用して生活習慣を見つめなおして行くことだと思います。四日市看護医療大学の学生が統合実習にきてくれます。自分がお世話になった大学の学生達が成長していくのを見ると嬉しい気持ちになります。これからも、私が卒業した四日市看護医療大学の役に立ちたいと思います。

山門美結(平成28年度卒業)

私は名古屋第一赤十字病院の心臓血管外科、循環器内科、血管外科の混合病棟で働いています。1年目の頃は覚えることが多く日々の業務をこなすのに精一杯でしたが、2年目になってようやく慣れてきて忙しい中でも患者さんやその家族と関わることの楽しさややりがいを感じられるようになりました。私が勤めているのは急性期病棟で患者の急変もあるため自分の知識や技術の未練さに反省することも多くありますが、同期や先輩に支えられて毎日頑張ることができています。これからも患者さんに寄り添った看護が提供できるように努力していきたいと思っています。



四日市看護医療大学大学院 看護学研究科（修士課程） 院生募集

卒業生の皆さん、大学院進学にチャレンジしてみませんか！

研究科長 水野 正延

少子高齢社会の到来、医療の高度化、人々の健康意識の高まりの中で、社会の看護に対する期待はますます大きくなっています。卒業生の皆さんは、第一線の医療・福祉の現場において日々多様な問題に直面され、奮闘されていることと思います。複雑な臨床問題を解決するための一つの方法として、臨地では「看護研究」が推進されています。

本学大学院修士課程では、「修士論文コース」と「専門看護師（CNS）コース」を設け、高度な専門知識・技術を身につけ、人々の複雑な健康問題の解決に積極的に取り組み、社会の要請に応えることができる人材の育成に取り組んでおります。また、さまざまな制度を構築し、多忙な仕事を継続しながら学べるように教育環境を整備しています。

これまでの自分のキャリアを活かしつつ看護の専門性をより高めたい方、新たに力を発揮するために必要なスキルを身につけたい方、研究力をアップしたい方など、看護学の探究に意欲を抱かれています卒業生の皆さま方、本学大学院へ進学してみませんか。教職員一同、心よりお待ちしております。まずは電話、メールでご相談ください。

お問い合わせ先 入試広報室 Tel：059-340-0707 E-mail：nyushi@y-nm.ac.jp

入学試験案内

出願期間	試験日
2019年2月1日(金)～2月8日(金) [締切日必着]	2019年2月16日(土)

卒業生特典

1. 入学検定料 35,000円 ⇒ **25,000円**
 2. 入学金 200,000円 ⇒ **100,000円**
 3. 授業料(年額) 750,000円 ⇒ **375,000円**
- ※授業料は修業年限2年の場合の年額

コース・分野

コース	専攻領域・分野	
修士論文コース	看護学基盤分野	基礎看護学
		在宅看護学
		看護管理学
	産業看護学分野	産業看護学
		母子支援看護学
	看護学実践分野	急性看護学
		慢性看護学
老年看護学		
精神看護学		
専門看護師（CNS）コース	看護学実践分野	急性看護学（急性・重症患者看護）

※専門看護師（CNS）コースは、日本看護系大学協議会より専門看護師教育課程として認定されています。

※職業を有している等の事情により、標準の修業年限（2年）で修了が困難な方に対し、在学期間3年の長期履修制度を設けています。

卒業生サポート

卒業生の皆様、元気にお過ごしでしょうか。

四日市看護医療大学では、卒業生への技術サポートとして技術演習会を開催しております。

今年度は、4月7日（土）、14日（土）、21日（土）に開催し、約40名の卒業生が来学しました。採血・静注シミュレータ“シンジョーⅡ”などのシミュレータを使用し、インサイト™、オブサイトなど実際に病院で使われている資材を使った演習を行いました。在学時とは比較できないくらい真剣に取り組んでいました。今年度末には、このような技術演習会を就職前に開催し、自信をもって就職できるよう計画しています。就職前の不安が少しでも解消できればと思っております。最後になりますが、卒業生の皆様の活躍を心から願っております。



担当：小寺直美、豊島泰子、
増田由美、野田朋美

決算報告書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(単位 円)

	費目	金額	備考
収入の部	前年度繰越金	18,895,262	
	会費収入	3,150,000	同窓会費105名分
	雑収入	159	預金利息
	合計	22,045,421	

	費目	金額	備考
支出の部	会費	52,824	暁学園同窓会費
	同窓会会報費	276,342	印刷、郵送代等
	卒業記念品費	144,180	マグカップ、花
	母校応援費	494,640	卒業生演習用機器
	雑費	74,556	同窓会角印、会議費
	小計	1,042,542	
	次年度繰越金	21,002,879	
	合計	22,045,421	

同窓会役員

会長 近藤あおい (平成22年度卒業)
 副会長 葛谷直樹 (平成23年度卒業)
 " 北森史佳 (平成24年度卒業)
 理事(書記) 達晴香 (平成26年度卒業)
 " 山平佳奈 (平成28年度卒業)
 理事(会計) 中村明日香 (平成23年度卒業)
 " 田路康恵 (平成26年度卒業)
 理事(監査) 伊藤愛美 (平成25年度卒業)
 " 中村愛佳 (平成25年度卒業)

理事 小嶋まり (平成22年度卒業)
 " 寺尾亮平 (平成23年度卒業)
 " 城島三愛 (平成23年度卒業)
 " 新田悠介 (平成25年度卒業)
 " 安達菜月 (平成25年度卒業)
 " 利見樹良莉 (平成27年度卒業)
 " 山門美結 (平成28年度卒業)
 " 下田楓子 (平成29年度卒業)

編集後記

同窓会副会長 葛谷直樹 (平成23年度卒業)

みなさん、暑い夏を乗り切り10月をむかえました。体調はいかがでしょう？

さて、今年は第一回となる同窓会総会を開催しました。この第一回開催を機に、同窓生の輪が広がりよき交流の場としてひろがっていくことを役員一同願っております。次回総会は堅苦しくなく、運動会を企画しております。皆が集まって身体を動かしたりフレッシュできるような機会になれば幸いです。

そして、同窓生ホームページが完成しました。ぜひ、活用してみなさんで同窓会を盛り上げていきましょう！

では、次回総会でお会いしましょう。

同窓会アドレス：y-dousoukai.com